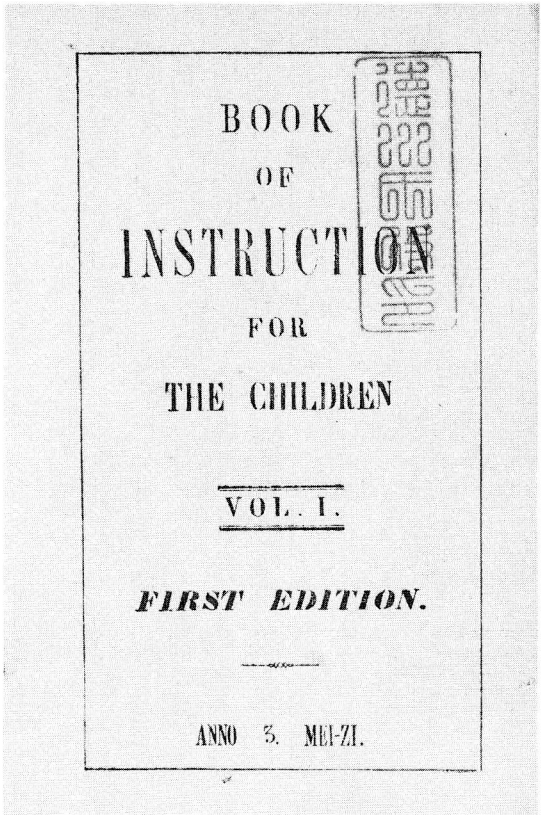
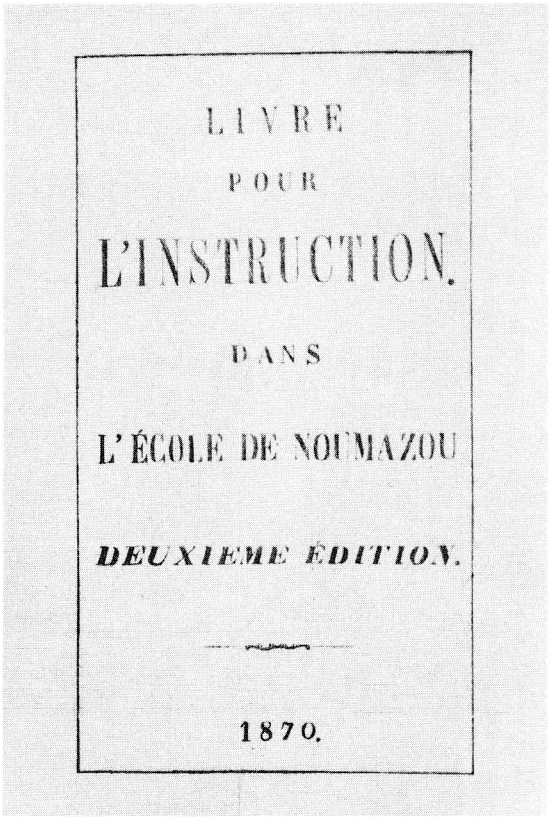
沼津市
明治史料館通信

1997．1．25（季刊 年4回発行）Vol.12 No.4　通巻第48号


BOOK
OF
INSTRUCTION
FOR
THE CHILDREN
VOL. I.
FIRST EDITION.
ANNO 3. MEI-ZI.

『英吉利単語篇』明治3年刊（当館蔵）扉
沼津版ではないが「徳川氏改印」が押されている。


LIVRE
POUR
L'INSTRUCTION.
DANS
L'ÉCOLE DE NOUMAZOU
DEUXIEME ÉDITION.
1870.

『法朗西単語篇』明治3年刊（当館蔵）扉
沼津兵学校刊行のいわゆる沼津版である。

シリーズ 沼津兵学校とその人材 45

沼津版の「徳川氏改印」について

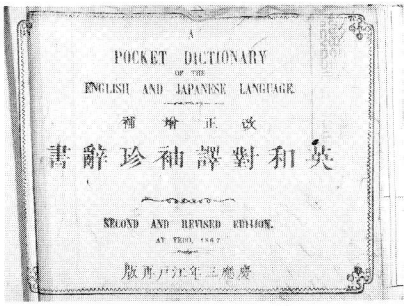
沼津兵学校の教科書として編集され沼津で刊行された本を「沼津版」という。現在十五種類が知られるが、「沼津学校」刊行のもの、「無尽蔵版」（一等教授渡部温刊行）のもの、出版元未記載のものとに分けられる。

「沼津学校」とはもちろん兵学校のことであるが、見開きにこの校名が明記されているのは、『筆算訓蒙』（明治二年刊）、『兵学程式』（明治三年刊）、『仏蘭西歩兵程式』（明治三年刊）、『野戦要務』（明治二年刊）、『智環啓蒙』（明治三年刊）の五種である。そしてもう一冊、日本語ではなくL'ÉCOLE DE NOUMAZOU とフランス語で記載されているのが、『法朗西単語篇』（明治三年刊）である。

『法朗西単語篇』を除いた五種の本の見返しにはいずれも「徳川氏改印」という朱印が押されている。また六種すべて奥付には「売捌蔵田屋清右衛門」と印刷されている。蔵田屋は東京の本

屋で開成所以来、幕府や明治政府の御用商人をつとめていた人物である。ちなみに、「無尽蔵版」の沼津版には「徳川氏改印」も蔵田屋の奥付もなく、渡部温個人に版権があったらしいことがうかがえる。

ところが、沼津兵学校刊行の本以外にも「徳川氏改印」は見い出せる。『英吉利単語篇』（明治三年刊）、『英和対訳袖珍辞書』（明治二年刊）などである。前者は慶応二年に開成所で刊行されたものの再版。沼津版の『法朗西単語篇』と体裁はほとんど同じであり奥付にも「売捌蔵田屋清右衛門」とあるが、沼津で刊行されたことを示す記載はどこにもない。後者は文久二年（一八六二）に洋書調所教授陣によって編纂されたものを改正増補し蔵田屋清右衛門が刊行した「慶応三年江戸再版」の重版で、巻末には「売捌蔵田屋清右衛門」「官許徳川氏蔵版」とある（荒木伊兵衛『日本英語学書志』一九三一年）。「徳川氏改印」が旧幕府の財産を継承した静岡藩の版権を示しているものだとすると、同藩は東京でも出版活動を行ったということになる。そして沼津版は静岡藩刊行図書の一種類として位置づけられる。



「徳川氏改印」が押された『英和対訳袖珍辞書』（沼津市立図書館「沼津文庫」）

帯刀姿の原宿の素封家植松与右衛門季敬（学山）　明治初年　64才
（柳下菊男氏提供）　同家は近世以来苗字帯刀を許されていた。

ぬまづ近代史点描 ㉜

幕末ぬまづの庶民と武道

新選組の近藤勇や土方歳三が武蔵国多摩地方の農民の出であったことはよく知られている。建前上、秀吉の刀狩り以来、農民は武器を奪われ、剣術をはじめとする武道などとは無縁であったように思われるが、決してそうではなかった。特に上層農民・町人にとって、武術は他の学問などと同様、嗜み・教養として身につけるべきものであり、修養や心身鍛練の手段でもあった。

表は各種文献・史料から判明した近世後期～幕末の沼津市域の農民武術家たちの一覧である。一見して名主クラスの豪農商である。

また、特に目につくのは、韮山代官所の剣術指南であった神道無念流の斎藤四郎之助善孝に師事した者の多さである。四郎之助は幕末江戸の三大道場の一つといわれた練兵館の斎藤弥九郎の息子であり、原宿で農兵訓練を担当したりしていた。表中の植松・渡辺・長沢・森岡は農兵に取り立てられた人物である。韮山代官採用の農兵は銃砲の訓練以外に剣術も教えられたのである。

斎藤の影響は韮山代官領以外の村にも及んだ。以下に引用する鳥谷村（旗本領）の名主川口家が設置した道場がそれである。「又武術指南所として鳥谷村川口与五郎氏邸内に二間に四間の剣術指南の道

幕末期沼津市域庶民の武道家たち

宿村名	氏　名	事　項（出　典）
沼津宿	鈴木文蔵（伯亨）	「喜控弓撃剣」（墓誌）
沼津宿	足助源七（蔦窓）	「撃剣則私淑諸戸加崎氏」（墓誌）
沼津宿	森忠三郎	「壮年之頃撃剣之術戸崎先生ニ相学処々遊歴仕候」（耳順祝賀会刷物）
沼津宿	大道寺治郎	「幼より武技を嗜み」（『静岡県現住者人物一覧』）
原宿	植松才助	「江戸ニ至り神道無念流ヲ専ラ修行シ」（『日記・見聞雑記』）
原宿	植松与右衛門季服	安政2年水戸藩士金子武四郎より、後斎藤四郎之助より剣術を学ぶ（「帯笑園植松家系雑記」）
原宿	渡辺平左衛門	「垂髫の頃有名の剣士千葉道三郎の門に入り武技を修むる」（『静岡県現住者人物一覧』）
原宿	長沢市平	植松学山に武技、江川太郎左衛門に砲剣二術、斎藤四郎之助に武術を学び、「其の蘊奥を究む」（同上）
木瀬川村	森岡元碩	「幼時武術を嗜み」（同上）
重寺村	加藤三郎左衛門規房	江川太郎左衛門の塾に入り「撃剣を斎藤某に学ふ」（『岳陽名士伝』）
重須村	土屋伊八郎	「壮年ニシテ剣法ヲ学ヒ剛健ノ気ヲ養ヘリ」（墓誌）
立保村	渡辺兵左衛門富保	嘉永4年1月15日より「榊原健吉ニ入門直心影流ヲ修業」（「履歴書」）

場ありて、斎藤四郎之助指南せられたり」（「鷹根村誌」大正二年、沼津市史編さん委員会編『旧村地誌』所収、一九九六年）。

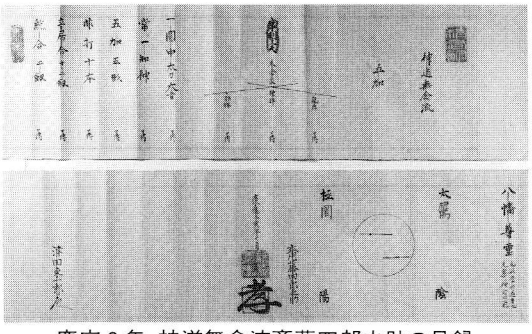
沼津藩の存在も周辺の庶民と無関係ではなかった。三島宿の本陣の当主樋口伝左衛門正隣は北辰一刀流千葉十太郎の門人であったが、安政から慶応期にかけて自分が試合をした相手の名前を記録に残している（「英名録」『静岡県史資料編15近世七』所収、一九九一年）。それによると、原謙次郎（心形刀流）、今井孝平・斎藤玄次郎・今井財次・岩城丹士・豊田静太郎・柳沢一馬・外木需之助・福岡五百八・福井寅之助・杉浦軍治・島津精一郎・大須賀金八郎・佐々木菊次郎・一杉元平（以上神道無念流）ら、多くの沼津藩士と試合している。沼津藩士は周辺の農民剣士の恰好な対戦相手になっていたことがわかる。

駿東郡千福村（裾野市）の名主をつとめた豪農で、幕府の愛鷹牧士でもあった横山瑞平直勝は、沼津藩士堀江五左衛門から大坪流馬術の皆伝を受けたという（横山正美氏所蔵「父横山瑞平略暦」）。

沼津藩きっての柔術家（揚心流）であった藍沢勝之（重次郎）は、私設の道場五箇所を沼津城下に有し、志多町では相撲力士に教えたりしたという（『練體五形法』一九〇三年）。

明治維新後も士族の存在は、文明開化期の逆境の中、武道の存続に少なくない影響を及ぼした。たとえば以下の新聞記事。

○此節は撃剣が流行て所々の学校や又は屯所抔にてチヤンボンとやらかし升が是



慶応2年　神道無念流斎藤四郎之助の目録
（土屋浩一氏所蔵）

は運動だとか又は軍の下稽古だとかで御尤の様なれど田舎にも此流行ありて豆州田方郡江間に旧水野藩織田正明といふ先生ありて元は桃の井の弟子だそうだが原木村名倉村桑原村等に門人がありて折々出張され御稽古が有るとの事是は運動でもなく軍の稽古でもなく大方盗人の用心で、もあるかしらん（『函右日報』明治12・11・29）

沼津の場合、維新後新たに移住した旧幕臣の存在も大きい。明治十五年（一八八二）九月二十八日、沼津城内町東照宮の臨時祭において奉納撃剣試合が行われたが、沼津在住の旧幕臣を中心に五十名が参加する盛況であった。郡長が桟敷で見物し、多くの観客で雑踏した。参加者へは郡役所と警察署から酒・赤飯が贈られたという（『沼津新聞』明治15・10・1）。

警察署や監獄が沼津に置かれたことも剣道・柔道の復興につながった。左のような記事がある。

○沼津警察署の警吏及び同所監獄支署の看守其の他同所の有志者等が申合せて同所城内町の小学校構内へ撃剣場を設けて頻りに撃剣の稽古をさる、よし右につき署長看守長も余程尽力さる、と云ふ（『函右日報』明治15・10・14）

明治十七年（一八八四）頃も沼津市街には四箇所の道場があり盛んに剣道が行われていたという（『函右日報』明治17・1・4）。

沼津兵学校附属小学校では体操・剣術・乗馬・水練が行われたが、その後身である沼津中学校では明治十四年（一八八一）八月に狩野川に水泳稽古所が開かれてた以外（『沼津新聞』明治14・7・23）、どのような体育教育が実施されたのか不明である。

韮山の私立伊豆学校では明治二十年（一八八七）に赴任した久連村出身の富田常次郎によって講道館の分場が開かれ、柔道が教えられた。しかし、学校体育の正課として中学校で剣道・柔道が認められるのは明治四十四年（一九一一）のことであった。

お知らせ欄

◎企画展「レンズに写った沼津 ―アマチュア写真家が記録した戦前・戦後―」の開催について

昨年12月8日（日）から2月23日（日）までの開期で開催しています。アマチュア・カメラマンの中野勇雄さんが撮影した昭和十年代から三十年代にいたる沼津の写真約百三十点の展示です。町並み、海や川・郊外の風景、祭り・台風・戦時下の人々など、その時々の世相や事件を写し出した貴重な歴史の証言者となっています。是非ご覧ください。

昨年12月8日には8ミリフィルム上映会を行い、中野さんが撮影した昭和三十年代の沼津夏まつりや狩野川台風、大相撲巡業などの映像を見ていただきました。

図録『レンズに写った沼津』（B5版、56頁）も一冊一〇〇〇円で頒布しています。

企画展「レンズに写った沼津」

◎最近の受贈資料紹介

当館には多くの皆様から貴重な資料を寄贈いただいております。これらの資料は大切に保存し活用させていただきます。

県会議員杉浦謙次郎褒状（堀川英子様）、西南戦争戦死者肖像（渡辺柳作様）、亀田鵬斎書軸他（真野正実様）、俳句短冊（石井敏子様）、軍事郵便（大嶋保久様）、沼津兵学校教授名和謙次のノート（渡辺弘正様）、同生徒芳賀可伝墓碑拓本（芳賀久雄様）、古文書（高村茂治様）、和本（篠原赳郎様）、陸軍大礼服他（坂井忠様）。

沼津市明治史料館通信　第48号
編集・発行　沼津市明治史料館
〒410 沼津市西熊堂二七二―一
電話 〇五五九―二三―二三三五
FAX 〇五五九―二五―三〇一八